

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470401116
法人名	桐ノ木 有限会社
事業所名	グループホーム 桐ノ木・本牧
訪問調査日	平成20年9月17日
評価確定日	平成20年9月30日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 9月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1470401116号
法人名	桐ノ木 有限会社
事業所名	グループホーム 桐ノ木・本牧
所在地	横浜市中区本牧町2 - 319 - 1 (電話) 045-628-0363

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 17日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	8人	常勤 8人	非常勤	常勤換算 8.0人

### (2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り	
	2 階建ての	1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	250000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (8月17日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 77 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	診療所スカイ 本牧病院 染葉歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは開設2年半になる2階建て1ユニットのバリアフリー構造の建物で、内部は明るくゆったりとしており、清潔で快適に保たれています。  
 管理者は、介護経験が豊富であり、「言われたことには必ず答えを出す」ことを心掛けています。職員は、常勤者のみで1年以上異動が無く、利用者は馴染みの職員の支援による安定した環境の中で、暮らしています。  
 1人での外出、お酒などの嗜好品も個々の状況に沿っての対応がなされ、日々その人らしい生活の支援の中にも、生活のリズムは大切に、体操と嚙下体操は毎朝の日課とし、また、定期的に回想法を取り入れるなど、残存能力が低下しないような配慮もしています。医療連携体制を整え、利用者の健康面の安心や重度化・終末期への対応への取り組みを行っています。職員の半数は終末期ケアの経験者であることも心強いものとなっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の取り組みを期待したい項目について、すべて取り組みが実現しています。運営推進会議を活かした取り組み、同業者との交流を通じた向上、事業所の多機能性を活かした支援、の3項目ですが、運営推進会議の開催、他グループホームとの交換研修の実現および地域のグループホームとの新たな交流、重度化や終末期に向けた支援強化のための医療連携体制が整えられました。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価表を配布して記入してもらい、取り組みました。日々の支援の再点検の中で、各職員の考えも改めて確認することができ、評価の意義の理解浸透および意識付けがさらに進み、サービスの質の向上につながっています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今期は2回実施し、3回目の開催が決まっています。ホームの活動や利用者の状況報告をし、助言への対応や取り組みが実施されています。委員からは、町内ボランティアの受け入れ、地域活動への積極的参加、ホームでのお茶会の継続などの助言や要望が出ました。                      会議を開催したことにより、民生委員の方と交流ができたことや、入居者家族から新たな観点でホームを見てもらえるようになりつつあることなども含めて、会議が活かされたものと評価しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>来訪時や電話、運営推進会議への出席、ホーム相談窓口および外部苦情申し立て機関を明記・掲示して、要望や苦情を表せる機会を多数設け、運営や日々のケアに反映させるように努めています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の文化祭に貼り絵や習字の作品を出品し、また、防災訓練への参加、お茶会へのお誘い、ゴミ集積場として協力することにより会話が生まれ、地域連携へと繋がっていきます。                      クリスマス会など事業所で開催のレクリエーション案内を自治会に回覧してもらい参加を呼びかけています。また、毎月ボランティアが訪問し習字の指導をしてくれます。                      毎日の食材の買い物や散歩時は、地域の住民と親しく挨拶し声をかけあっています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく生活できることを支援するために、「ゆったりと穏やかに過ごします」を理念に掲げています。ゆっくりした時間の流れに沿い、利用者の立場で笑顔を心がけ、近隣の方々とのかかわりを大切にすることを行動の指針としています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム紹介のパンフレットに理念を明記し、また、事務所に理念を掲示し常に職員が理念を意識するようにしています。毎月定例のミーティングで、利用者がそれぞれに理念に沿って生活できているかを職員全員で話し合い、理念実現に向けての意識を徹底しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の文化祭に貼り絵や習字の作品を出品し、また、消防訓練への参加、ゴミ集積場として協力をを行うなど、地域連携に努めています。クリスマス会など事業所で開催のレクリエーション案内を自治会に回覧してもらい参加を呼びかけています。散歩時は地域の住民と親しく挨拶し気軽に声をかけあうようになっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価表を配布して記入してもらい、取り組んでいます。日々の支援の再点検の中で、各職員の考えも改めて確認することができ、評価の意義の理解浸透および意識付けがさらに進み、サービスの質の向上につながっています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで2回開催し、3回目の開催が決まっています。ホームの活動や利用者の状況の報告をし、委員からの助言への対応や取り組みが実施されています。会議の開催により、民生委員の方と交流が出来たことや、入居者家族から新たな観点でホームを見てもらえるようになりつつあるなど、会議が活きたものとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生活保護担当者の毎月の来訪、メールでの情報交換、グループホーム連絡会や地域包括支援センターなどとの交流および連携により、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の写真を同封し、金銭の報告・請求と共に各種報告をしています。また、来訪時はもちろん、状況に応じて電話をしています。ホーム内にも写真等を掲示して、利用者の様子が分かるようにしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話、運営推進会議への出席、ホーム相談窓口および外部苦情申し立て機関を明記・掲示して、要望や苦情を表せる機会を多数設け、運営や日々のケアに反映させるように努めています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、非常勤はおらず常勤のみとなっており、1年以上異動がありません。利用者は馴染みの職員の支援による安定した環境の中で暮らしています。新しい職員が入った時には、引継ぎをしっかりとし、利用者の様子をよく見ながら、ダメージを防ぐよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の勧めや職員からの要望により、研修や勉強会が行われています。費用は交通費も含め全額運営者が負担して支援しています。毎日のカンファレンス時および職員会議では小さなことでも話題にあげて話し合い、お互いに質の向上に努めています。記録により、情報の共有を図っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流、グループホーム連絡会への参加、他ホームとの交換研修、関連法人内ホームとの交流の場を設けており、ケアに活かしていけるように取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時に家族と十分話し合い、利用者の状況を把握し、お試し宿泊を実施し不安解消に努めています。退院時の再入居の際も利用者の状況を事前に確認し、利用者が不安を感じないように配慮しています。また、一日ごとにリーダー職員を定め、入居後の利用者の状況を申し送りノートに記述し職員間の情報共有に努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は料理や材料のことなど利用者から生活の知恵を学んでいます。利用者とは毎日買い物に出かけ野菜の見分け方を教わっています。また、利用者とは職員が協力し糠床をつくり、毎日おいしいつけものが食卓を飾っています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントで利用者の生活歴や日常生活状況を確認し、相談記録票に記述し介護計画に反映しています。また、日常生活における利用者の気持ちの動きや生活状況の変化を気づきシートに記述し、カンファレンスで職員全員で話し合い、介護計画に活かしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員が参加して毎日カンファレンスを開催し、利用者の生活歴や気づきシートを参考にし、また、家族の希望を取り入れて介護計画を作成しています。医師や看護師の意見を生活記録に記述し、介護計画に反映しています。介護計画には家族の同意のサインがありません。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに利用者全員の介護計画を見直しています。介護計画の課題項目ごとに、継続、変更、追加、終了をチェックしモニタリングシートに記述し、介護計画に反映しています。また、利用者の状況に変化があれば、その都度介護計画の見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の活用により、健康面の安心や重度化・終末期への対応への取り組みを行っています。必要に応じての通院支援や入退院に関する支援を行っています。また、地域の方へ声掛けをしてホームでお茶会を開き、ホームの様子や入居者のことを理解してもらう機会を設ける試みをしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の了解のもと、ホームの協力医をかかりつけ医として毎週の往診による健康管理が行われています。協力医以外に、希望するかかりつけ医にかかっている入居者もいます。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にきちんと説明をしています。本人の容態と本人の意向を尊重しながら、その都度関係者で話し合っ て対応していくこととしています。職員の半数は、終末期ケアの経験者であることも心強いものとなっています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助などで利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、特に言葉遣いに注意し、名前を呼ぶ時 もなれなれしくならない様にしています。職員全員が個人情報保護の誓約書を提出し、生活記録の記述も利用者の頭文字で表記するなど、個人情報の保護に努めています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者にとできることとできないことを常に意識し、一人ひとりの生活の流れに沿い、一日をゆったりとした気持ちで過ごせるように見守っています。散歩や買い物に行く時も必ず職員が声をかけ、利用者が自分のペースで行動できるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は料理の本を利用者と一緒に見て食べたいものを話し合い、また、希望を聞いて毎日利用者と買い物にいきます。食材選びから料理、後片付けまで、利用者がそれぞれの役割で手伝います。このような取り組みが毎日の食事を楽しくしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきに週3回が基本です。毎日でも希望があれば可能です。入浴を拒否する利用者に対しては、職員がゆっくりと時間をかけて呼び掛け入浴を促しています。ゆず湯や菖蒲湯などで入浴を楽しむ工夫をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の水遣りや床の掃除、手すりの消毒、食事の準備など、本人の自発的なものや能力に応じて、利用者ごとの役割を持って暮らしています。また、利用者は理美容に通い、季節ごとに衣類に変化をつけて、できるだけおしゃれを楽しむようにしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけています。また、利用者に声をかけて毎日買い物に行くようにしています。一人で外出できる利用者には、家族と相談して小遣い管理も本人ができるように支援しています。また、外食や花見などドライブでの外出を多くし、利用者が外に出る機会を作っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの中、日中の玄関の施錠はほとんどしていません。ホーム内での施錠はしておらず、利用者は自由な暮らしをしています。逆に利用者から「誰が入ってくるかわからないから鍵をかけたら」との声が出ることもあるくらいです。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「自主消防訓練要綱」に則り、利用者と共に年2回避難訓練を実施しています。地域の防災訓練に参加して、更に「ここにホームがある」という認識を近隣に広めることに努めています。災害に備えて、飲料水、食料、ポータブルトイレの備蓄をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態および栄養バランスを考えて、利用者と一緒に献立を考えています。生活記録に食事量を毎日記録し、水分摂取量については不足時には記入して毎日のカンファレンスで話し合い、必要量が確保できるように支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るくゆったりとしており、整頓され、清潔で快適に保たれています。リビングには季節感を取り入れたカレンダーを毎月利用者と共に作って飾るなど、暖かみのあるものとなっています。ウッドデッキがある庭には、大きな桐の木と多くの草花が植えられ、季節を感じられる場となっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、仏壇をはじめ、絨毯や布団を敷いたり、使い慣れたものや好みのものを置いて暮らしており、本人の生活スタイルを取り入れた居室となっています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループ ホーム桐ノ木・本牧
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市中区本牧2丁目319 - 1
記入者名 (管理者)	宮坂 和子
記入日	平成 20年 8月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣の方々とのつながりを大切にし、つながりのある生活をする事を理念の一つに掲げている		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本人らしくゆっくりと、穏やかに過ごしていただく為に スタッフ全員で話し合い 理念を実践出来るよう取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	二ヶ月に一回レクリエーション開催を継続している 年一回の家族参加のイベント開催を継続している		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方との挨拶は自分たちから 気軽に声を掛けてもらえるようにしている		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っている、お祭り、文化祭などに参加している 二ヶ月に一度レクリエーションを開き 自治会に回覧を回してもらい参加を呼びかけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	二ヶ月に一度レクリエーションに参加していただいた自治会役員の方に話を聞き、役立てるようにしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で取り組み、現在の自己の評価を話し合っている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った事、意見を参考にしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区町村開催の研修会等に参加する様にしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	区のケースワーカーと話し合い 必要な人にはそれらを活用できるように支援している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止パンフレットを、申し送りノートにつけてスタッフの目に付くようにしている 利用者同士のトラブルが弱者に及び虐待にならないように気を配っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時必ず十分な説明をしている	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者に意見を聞くようにしている	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への説明 報告はホームにいらした時に本人の様子をお話し、必要に応じて電話にて詳細なことでも連絡、報告している</p> <p>毎月撮った写真を送付している</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	事業所入り口にポスターを貼り、苦情を事業者外でも相談できるようにしている	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一回ミーティングを開いている	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	十分職員は確保できている	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	一年以上職員に変化は無い	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作り参加してもらっている 毎日カンファレンスを行いスタッフ同士の勉強や気づきにつながるようにしている	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している 交換研修を実施し同業者との交流の機会を作っている	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングのみでなく 毎日のカンファレンスにて個々の話が出やすくしている	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の申し出が有った時は対応している	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず本人面談を行っている	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時家族との会話に時間を多くとるようにし、話の中から利用者本人の情報また家族の情報を聞かせてもらうようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用時 自室に本人の馴染みの物を用意してもらう		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人と向き合うようにしている 人生の先輩として色々学ばせて頂いている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の事情を理解し 家族の立場に立ち利用者の話をしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の希望と利用者の希望の違いを理解し よりよい関係が維持できるように支援している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出 友人等の面会は歓迎している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の係わり合いの中に、スタッフが上手に入りより良い関係が維持できるようにしている わずかな時間でも関わり合える時間が持てるよう努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする方には 関係を断ち切らないで大切にしていく		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを汲めるように努力している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を把握し、個々に向き合いその方を理解してサービスしていく様に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスの情報を元に現状をしっかりと把握し、日々の変化を観察して総合的に把握できるように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のカンファレンスや、気づきシートの意見を反映している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化があった時は計画の見直しをし、カンファレンスや家族の意見を元にして新たな計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきシートを使用し 毎日カンファレンスすることで情報の共有に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調や家族の状況に応じ、事業所で出来る柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に月一回お習字をお願いしている 地域の方には二ヶ月に一回レクリエーションを実施している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向が無いので利用していない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの行事に参加出来る時はしてる		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医に受診されている ホームDrが毎週来られかかりつけ医になっている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームDrに相談し 専門医が必要なときは受診し治療を受けられるようにしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携を実施しているので馴染みの看護師が毎週来られ健康管理や医療活用の支援をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者への面会は時間を作り面会に行き安心出来るように心がけている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医 看護師と共に変化に備えている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は十分な話し合いと情報交換を行うようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや 記録の取り扱いは十分に気をつけている	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望に耳を傾け本人が選択出来るような声の掛け方をしている	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて希望に沿うように対応している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節により衣類を整理し自分自身でなるべくおしゃれできるようにしている 理容・美容は本人・家族と話し合いお連れしている	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望を聞き一緒に買い物に行き、準備やかたづけの出来る方にはお願いをしている	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みを伺いお出ししている タバコは場所を決め火の元の管理をしっかりと楽しめるようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿便意の無い方でも 日中は時間誘導を行い トイレにて排泄していただいている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人個人声掛けを工夫し 拒否があるときは時間をかけ気持ち良く入浴できるように支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	いつでも休息できるように支援している ナイトケア時パジャマに着替えていただき 夜である事の認識をしてもらう 定期的に寝具の洗濯をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事 好きなことを把握し スタッフが協力し役割を持ってもらうように支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人で外出可能な方には買い物に行ってもらっている お金の管理も家族と相談して自己管理できるように支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人で外出可能な方には一人で 介助が必要な方には スタッフと外出し 買い物 外食が出来るように支援している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見 お祭りのお神輿 花火 クリスマスイルミネーション等は車にて外出しなるべく季節を感じていただける様に支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用を家族と相談し許可している 葉書などの返事が書けるように支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族にはいつでも気軽にいらしてくださいと声を掛けている 週に1～2回面会にお見えになる家族があられます		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体だけでなく 言葉の拘束も含め取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は 地域上危険があるので掛けていることが多いが 日中は掛けないで過ごすこともある		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜の見守りを実施している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は 貸し出す事にしており 使用したい時はスタッフに声掛けをしていただき 貸し出すようにしている		一人で外出される方の危険物の持ち込みに、十分注意していく
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、夜間使用のスリッパに鈴を付けたり 飲み物にとろみを付けたりし、食事の際は必ずスタッフが見守りをしている		

項 目		( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員では無いが 救命救急の訓練を受けた職員が居る	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を実施している 地域の防災訓練に参加している	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	看護師 Drの往診時に体調不良が判明したような時は家族に連絡 をし説明して本人の様子の把握を事業所と家族が同じようにしている	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック 食事量の把握 体調の変化に気が付いた時は看護師に連絡をしてDrの指示をもらい 指示を日報 申し送りノートに記入して職員一同で情報を共有できるようにしている	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルにしている	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の確保やヨーグルト、オリゴ糖の使用をしている 飲食だけでなく毎日の体操にて身体を動かしている	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後 必ず口腔ケアを一人一人に合わせて実施している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表を作成し一日のバランスを考えて食事を作り、一人一人に合った形状や量をお出ししている 麦茶ゼリーを作り毎食お出しして 水分の確保に努めている、 好みをお聞きして食事作りをしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい 手洗いを実施 食事前にセッケンでの手洗いを継続している オムツ交換時にはグローブを使用している ペーパータオルを使用している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒やフキン、コップ除菌の為にハイター消毒をしている 食器は 食洗機を使用 食材は 毎回買いに行き調理している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の安全に気をつけ 利用者家族が出入りしやすいように日中鍵を掛けない時間がある		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくゆったりと過ごせる様に整理整頓を心がけ 利用者で作った カレンダーを毎月新しくして季節感を採り入れている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席をなるべく気の合う方と一緒にし テーブルに名前を付けて個人の居場所を確保している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や見慣れた品物を持参されて、以前の生活感の中で過ごしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間の換気と エアコンによる集中管理をしている 本人の申し出があればエアコンの入り切りをしている		利用者本人がエアコンの入り切りしてしまい、温度管理が出来ない時があるので、こまめにエアコンのチェックをして行く
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立独歩や車椅子の方は2階の部屋を利用いただき、安全に気を配りながら階段の使用又はエレベーターの使用をしていただいている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の個々の能力や出来る事を把握して出来る事をスタッフと一緒にしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植え ウッドデッキに椅子やテーブルを置き、タバコを吸ったり花を眺められるくつろぎの空間を作り、花の水やりや世話をお願いしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりと、ゆっくりと、穏やかに過ごしています。 毎日の体操を通して体力の衰えを緩やかにし、予病につながるように努力しています。